

## 多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol. 1 9 2】  
添付ファイル: 緊急事態宣言下で診療所がすべきこと：日経メディカル.pdf; 新型コロナ、薬物依存症の患者が窮地に、米国（総括版）\_ ナショナルジオグラフィック日本版サイト.pdf

各位（本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 力所へ BCC 送信しています）

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。  
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。  
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

### 【目次】

1. 緊急事態宣言下で診療所がすべきこと（添付）
2. 「ベンゾジアゼピン副作用」の診断書をもらうには（助言）
3. ベンゾジアゼピン集団訴訟の費用（重要）
4. 新型コロナ、薬物依存症の患者が窮地に、米国（総括版添付）

### 【記事】

1. 緊急事態宣言下で診療所がすべきこと（添付）

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/taniguchi/202004/565215.html>

以下引用

『当院をかかりつけ医にしている患者に対しては、初めて聞く症状であったとしても問診だけで判断して胃薬・便秘薬や抗ヒスタミン薬、（最小限の）鎮痛薬、漢方薬などは過去に処方したことがなくても処方している。一度このようなことをしてもいいかどうか確認するために当局に問い合わせたところ「どうしても必要と医師が判断すればいいかもしれない」といった曖昧な回答しか返ってこなかったために、僕が「OK」と勝手に判断している。これくらいの責任は引き受けるつもりだ。患者に外出を控えてもらうためなのだから。ただし、抗菌薬やベンゾジアゼピンの処方はいくら頼まれても拒否している。また、当院未受診の患者に対する処方現時点では見合わせている。』

コロナ騒動で、不安を感じて「ベンゾジアゼピンを下さい」などと医療機関で要望しては駄目です。良心的な医師は、上記のとおり「ベンゾジアゼピンは拒否」であるが、安易に処方する医師は多く、それは「ベンゾジアゼピン地獄への入口」になる。

2. 「ベンゾジアゼピン副作用」の診断書をもらうには（助言）

過量・長期間にベンゾジアゼピンを服用し、ベンゾジアゼピン副作用であるにもかかわらず、「ベンゾジアゼピン副作用」の診断書がない方が多く、「どうすればベンゾジアゼピン副作用の診断書をもらえるのか?」という問い合わせがよくあります。各個人の事情が異なるため、一概にその方法を助言できませんが、いくつか共通する注意点があります。

(1) ベンゾジアゼピンを処方した医師（前医）が「ベンゾジアゼピン副作用」の診断書を発行することは、まずありません。自分が訴えられるリスクが発生するからです。したがって、別の医師（後医）に診断書を依頼することです。

(2) その際、患者自身が「ベンゾジアゼピンを服用して、・・・」と説明しても、後医がその内容を確認できないため、口頭説明だけで前医の処方薬による副作用の診断書を、まず書いてくれません。そこで、前

医の診療録を開示請求して、後医に提示することにより、後医を説得する必要があります。そこでの説明・交渉は、あなた自身の熱意と力量によります。

③前医と後医が同じ地区の医師会に所属していれば、いわば「お仲間」であり、医師間の互助ネットワークは強固ですので、後医は前医の過失となる恐れがある診断書を、まず書きません。したがって、前医との利害関係ができるだけ薄い後医に依頼する必要があります。遠隔地や公立病院などの医師などです。公立病院もどこの大学の系列なのかがありますので、系列外の病院が良いと思います。

④私自身も、前医（国循、大阪）の診療録を開示して取寄せ、後医（名古屋市大病院）へ提示して、初めて、確定診断書を得ています。

### 3. ベンゾジアゼピン集団訴訟の費用（重要）

集団訴訟の費用として、①訴状印紙代、②訴状郵券代、③弁護士費用、④診療録・診断書の費用、⑤協力医の意見書等の費用・謝金、⑥証拠提出用の文献謄写費用などがありますが、当会が予定している『ベンゾジアゼピン薬害の国家賠償請求集団訴訟』の費用について、④診療録・診断書の費用を除いて、①②③⑤⑥の費用は、全額を当会が準備します。したがって、当会は集団訴訟の準備段階に入ります。また、将来、集団訴訟の終結後、仮に、敗訴した場合は、各原告の訴訟分担金は全額免除します。よって、原則、各原告が訴訟費用を準備する必要はありません。

### 4. 新型コロナ、薬物依存症の患者が窮地に、米国（総括版添付）

<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/20/042300257/>

以下引用

『米国では毎週、200万人以上が中毒性のある鎮痛剤オピオイドを、50万人が覚せい剤を使用している。2018年には、4万6000人が薬物の過剰摂取で死亡した。新型コロナウイルスが与える影響は社会的弱者ほど大きいといわれるが、なかでも薬物依存症患者は、特殊なリスクに直面している。（参考記事：「オピオイド依存に悩む米国、貝の毒で新薬開発へ」）』

『オピオイドの1種であるヘロインの元常習者で、パートナーが過剰摂取で死んだのを機に覚せい剤を使い始めたトム・スローベン氏は、パンデミックで違法薬物が手に入りにくくなったという。そのせいで今、離脱症状に苦しめられている。「まるで、体の両側に140キロのおもりを2個ぶら下げているようです。体が重くて動けません」

覚せい剤を突然やめると、激しい不安とうつに襲われる。また、オピオイドであるヘロインやフェンタニルは、とりわけ離脱症状が重いことで知られている。「離脱症状に耐えきれず、自殺してしまった人も知っています」と、ジーゲンホーン氏は言う。』

現在、喫煙者（ニコチン依存症患者）は、コロナ感染リスクも重症化リスクも高いと言われているが、元々、喫煙が健康に害悪なことは知られており、それでも喫煙を続けていることは本人の責任である。同様に、「危険と言われている違法薬物」を興味本位で使用して、薬物依存症から抜けられなくなった患者がさらに窮地に立っても、冷たい気がするものの、あまり同情の余地がない気がする。

それに対して「ベンゾジアゼピン依存症」は医師が治療上処方した医薬品による依存症であり、患者は治療を目的に、「安全な薬だ」という説明を信用して服用を継続した結果、つまり、医師の指示どおりに服用した結果、ベンゾジアゼピン依存症に罹患している。したがって、「違法薬物依存症」と「処方薬依存症（医原性疾病）」は、まったく経緯も病態も異なる。よって、ベンゾジアゼピン依存症は全面的に処方医師に責任がある。また、その背景には、処方医師に対してベンゾジアゼピン副作用の警告を怠ってきた国の医薬品安全行政及び製薬会社の重大な責任がある。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史